

なぜ今、学校再編が必要なのか

「結城市学校適正配置等に関する方針」を策定

全国的に少子化が進行し、本市でも6つの小学校がすでに全学年単学級の小規模校となっています。今後も児童生徒数の減少傾向が続くと考えられ、学校の数や適正配置について、真摯に向き合わなければならない時期にきています。

市では、令和3年1月に「結城市学校適正配置等検討委員会」を設置し、学校規模の適正化や小

中一貫教育の推進などをテーマに検討・協議を進めていただき、その提言を受けて「学校適正配置等に関する方針」を策定しました。

今回は、検討委員会に参加した方などのお話を伺いながら、方針の概要をお伝えします。



方針の詳細は
市ホームページへ



地域の在り方から見直し
次の70年を見据えた
改革を

結城市長 小林 栄

本市は、2024年に「市制施行70周年」を迎えます。今回の学校再編計画は、これまでの70年間を総括し、“これからの70年”を見据えた「結城市の在り方」を示すものであると考えています。

今回の計画では、特に結城南中学校区について、具体的な方針をお示ししました。当学校区は、広大な田園風景や里山など、豊かな自然環境があふれる地域です。一方で、居住人口は今後も減少が見込まれ、主要産業である農業の担い手確保や農地管理の問題など、総合的に解決しなければならない課題もあります。

そのためには、今回の学校再編を少子化による“後向き”な再編ではなく、将来を見据えた“前向き”な再編ととらえ、教育環境にとどまらず、福祉・交通・防災・コミュニティなど、「結城南中学校区の在り方」そのものから議論する必要があります。

その軸となる教育環境としては、当学校区の特徴を存分に生かし、さまざまな体験を通じて「自然」への関心を高める教育や、感性豊かな子どもを育てる「音楽」、そして世界へ羽ばたく人材を育てる「英語」の充実など、特色ある教育環境の整備を目指しています。また、子育て世代が自由に移住・定住できるよう、都市計画の変更などを含めて思い切った改革を行い、「この地域に住みたい・学ばせたい」と思われるような魅力ある地域を作り上げていきたいと考えています。

「すべては将来を担う子どもたちのために」この思いを胸に刻み、地域をよく知る方の知恵をお借りしながら、大きな責任と強い覚悟をもって取り組んでいきます。

地域への愛情と誇りが持てる教育を

結城市教育長 黒田 光浩

50年前に結城南中学校が新設された際、私は第一期生だったのですが、勉強も運動も、レベルの高い人がたくさんいました。そんな仲間と出会い切磋琢磨したことで、より高みを目指すことができたと思っています。子どもたちは、環境が変わることで大きく成長し、結果的に「人生の選択肢」が広がっていきます。まさしくそれが、教育の役目ではないでしょうか。

また、多人数での共同生活は、子どもなりの“自治

意識”を芽生えさせ、18歳の成人に向けた心の成長、そして地域への感謝の想いも育ちます。子どもたちが「地域への愛情と誇り」を持ち、その地域へ定住する。これも、教育の大切な役目です。

50年前に学校再編の恩恵を受けた私が、立場が変わってまた学校再編に携わることができ、心から幸せに思うと同時に、責任も重大であると実感しています。将来を担う子どもたちに、本市の地域性を生かした素晴らしい教育を提供できるよう、学校再編計画の推進に尽力していきます。

検討委員会委員が見据える「将来」

「結城市学校適正配置等検討委員会」は、市内の教育・保育関係者などを委員として、計6回にわたる審議を重ねました。この委員会に、保護者代表として参加した上田哲弘さんに、お話を伺いました。

まずは子どもたちの「心のケア」を



うへだ てつひろ
上田 哲弘さん

結城市学校適正配置等検討委員会委員
(令和3年度結城市 PTA 連絡協議会会長)

検討委員会には、市 PTA 連絡協議会の代表として、また子どもが結城南中学校に通っているので、「保護者代表」の想いも持ちながら、参加させていただきました。結城南中学校区は、絹川・江川北・江川南・山川・上山川の5小学校すべてが全学年単学級のため、「クラス替え」ができません。そのため、運動会でもクラス対抗ができない、紅組・白組に分けるにしてもクラスで半分に分けるといった状況が続いています。もちろん、少人数教育にも良さがありますが、何より「子どもたちの将来」を見据えたときに、小さいころから多様な価値観に触れられる環境が大切です。「出身校がなくなるのは寂しい」という話を聞くこともありますが、子どもたちのためという期待もあり、保護者を含め多くの方には納得していただけるのではないかと思います。

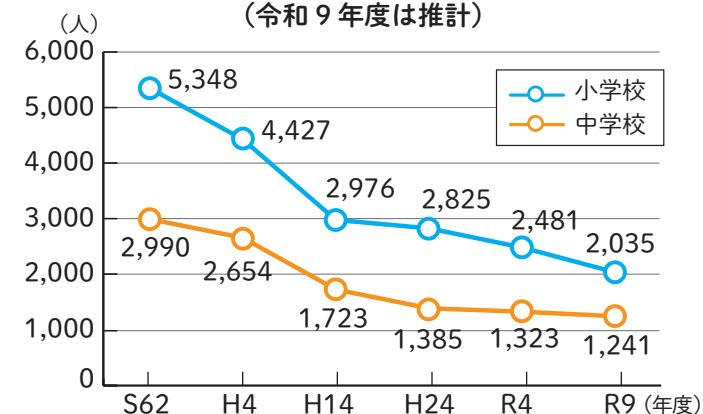
方針では、「5つの小学校を統合して、結城南中に近い場所に新設し、小学校と中学校が連携する『小中一貫教育』を目指す」としています。ただ、形式上は統合できても、長年築いてきた子どもたちの関係性や、PTA・子ども会・スポ少などの学校単位のコミュニティを、どうやって統合するのか。スクールバスにしても、雨天時は車送迎の家庭が増えますから、残された徒歩通学の子をどうフォローするのか。現実問題はとても難しいです。今までと違う集団生活になじめず、孤立してしまう子も出てくるかもしれません。子どもたちや保護者がスムーズになじめるよう、まずは「心のケア」を手厚くしてほしいです。

統合までまだ時間があるので、できれば統合前から、学校ごとに交流・連携できるといいですね。現場の負担も当然増えるので、頑張ってくれている先生の意見

も取り入れていってほしいです。市内全体のバランスをとるためには、将来的に『学区』という考え方自体を無くし、義務教育段階から「行きたい学校を自分で選べる」といった大胆な改革も必要かもしれません。

今後、より具体的な検討に入っていきますが、何よりまずは、そこで学ぶ『子どもたち』を第一に考えた学校づくりを目指してほしいと思います。

市内小中学校の児童・生徒数の推移
(令和9年度は推計)



結城南中学校区の5小学校児童数の推計

